

2学年通信



文責:中村太一

発行:令和8年5月29日

性教育学習会

5月21日(木)に性教育を行いました。今回の性教育では、志摩中学校の卒業生である東条柳さんに講師としてお越しいただき、「多様性」についてを中心にお話していただきました。

その中でまず伝えられていたのは、「人を外見で判断するのではなく、内面を大切にすること」です。性の在り方や感じ方は一人ひとり異なり、見た目だけでは分からない大切な思いや考えがあります。だからこそ、相手の内面に目を向け、尊重することが大切であるとおっしゃっていました。

また、自分の性や自分らしさについて周囲に伝える、カミングアウトの場面についてもお話がありました。その際には、不安な気持ちを抱えながらも、自分を大切に、「できるだけ前向きに話すこと」、そして「大丈夫」という気持ちを大切にすることが重要だと教えていただきました。



東条柳さん



講演の様子

さらに、話を聞く側の姿勢についても重要なお話がありました。誰かが勇気を出して打ち明けてくれたときには、否定的な言葉を口にするのではなく、その気持ちを受け止めることが求められます。「話してくれてありがとう」という思いを持ち、相手を尊重することが、相手を安心させることにつながります。

今回のお話を通して、性の多様性について理解を深めるとともに、お互いの違いを認め合い、「大丈夫」と言い合える関係を築いていくことの大切さを学びました。これからの学校生活の中で、一人ひとりが安心して過ごせる学年を目指していきます。

生徒の感想

違いや個性は、その人をかたちづくる要素の1つなんだなと思いました。カミングアウトをする側は、「前向きに伝える」、聴く側は「否定したり、嫌なことを言ったりせずに、まずは勇気を出して伝えてくれたことを認める」ことが大切だと感じました。

性にはたくさんの在り方があり、100人いれば100人の考え方があるように、性にもたくさんの考え方があるということを知りました。また、東条さんを見て、自分をしっかりもっていて素敵だなと思いました。私は、人と比べて「あの人はあんなにできるのに、なんで私はこんなことができないのだろう」とか、「あの子や、みんなもこうしているから私もこうしなきゃ」と思ってしまうから、東条さんのように、自分と他人を比べないようにしていきたいです。

LGBTQの人と接するときや、カミングアウトをされたとき、相手の性格と性について分けて考えるのではなく、性の多様性ごと受け入れると相手はうれしいんじゃないかなと思った。今は、昔と比べて、LGBTQの人が声を上げやすくなったけど、東条さんのいうように、LGBTQと言われて区別されるよりも、いることの方が当たり前と感じられる社会になるといいなと思う。

「性」ではなくても、他の人と違うことは誰しも不安だし、悩むなと思った。自分がカミングアウトをされてパニックにならない自信はないけれど、伝えてくれたことに「ありがとう」と思って否定せずに、答えを考えていきたいと思う。これからたくさんの人に出会うけど、今日教えてもらったことを忘れずに過ごしたい。

6月の予定

3日(水) 眼科検診

25日(木) スケッチ大会

15日(月) 教育相談(～19日)

※6月の Delayed Start は6月8日(月)、15日(月)、22日(月)、29日(月)です